

開催中の
企画展

密 祐快 展

「虚空を去来するもの一棺一」

5月13日(日)まで開催中



「到彼岸」



「棺2005」

養父市八鹿町在住の作家密祐快氏の展覧会を開催します。

1980年代に但馬各地で開催したドッキングアート展の中心メンバーとしての活動を皮切りに、本格的に芸術活動を開始し、20代でアジア、オーストラリア、中南米などを放浪時に、紡ぎと原始機を習得し、織物を始め、現在は現代彫刻の素材としては珍しいシュロ縄を用いて編むようにして作品を制作しています。その作品は北陸中日美術展での中日大賞受賞、あさご芸術の森大賞展で準大賞受賞するなど、様々な全国コンクールで高い評価を受けています。

密祐快氏は、春は「木蓮」、秋は「白萩」の花で有名な養父市八鹿町の真言宗のお寺、高照寺の住職でもあります。彼の制作テーマは「生と死」、とりわけ「棺」を題材にしたものがほとんどです。昨年の東日本大震災から約1年。津波による多くの犠牲者の方々の成仏を祈りながら制作に励まれています。

アトリエ室

あさご芸術の森美術館作家の提案シリーズ ver.8

竹鶴壽男 展

—白き鳥に託して—シリーズ2

4月22日(日)まで開催中

あさご芸術の森大賞展2005において優秀賞を受賞した竹鶴壽男氏の作品展です。シャープに表現された「白き鳥に託してシリーズ」を中心に紹介します。



「望郷」